

高等学校 令和4年度（1学年用） 教科 地理歴史 科目 地理総合

教科： 地理歴史 科目： 地理総合 単位数： 2 単位
対象学年組：第 1 学年 1 組～ 6 組
使用教科書：（ 高等学校 新地理総合 ）
教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 地理総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめているようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 地図と地理情報システム 【知識及び技能】 日常生活の中でみられる地図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解し、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	・指導事項 GIS教育 ・教材 教科書、地図帳 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 日常生活の中でみられる地図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解し、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 地図や地理情報システムについて、位置や範囲などに着目して、目的や内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	○	○	○	4
	B 単元 結び付きを深める現代世界 【知識及び技能】 現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 現代世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	・指導事項 GIS教育 ・教材 教科書、地図帳 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解している。 【思考・判断・表現】 現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 現代世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
	C 単元 「世界の地形」「気候」と人々の生活 【知識及び技能】 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地形や気候から影響を受けたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。 【思考・判断・表現力等】 世界の人々の生活文化について、場所の特徴や地形や気候などの社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 生活文化の多様性と国際理解について、地形や気候などを基によりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	・指導事項 GIS教育 ・教材 教科書、地図帳 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地形や気候から影響を受けたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 【思考・判断・表現】 世界の人々の生活文化について、場所の特徴や地形や気候などの社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 生活文化の多様性と国際理解について、地形や気候などを基によりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○	10
	D 単元 世界の「言語」「宗教」と人々の生活 【知識及び技能】 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が言語や宗教から影響を受けたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。 【思考・判断・表現力等】 世界の人々の生活文化について、場所の特徴や言語、宗教などの社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 生活文化の多様性と国際理解について、言語、宗教などを基によりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	・指導事項 多文化教育 ・教材 教科書、地図帳 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が言語や宗教から影響を受けたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 【思考・判断・表現】 世界の人々の生活文化について、場所の特徴や言語、宗教などの社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 生活文化の多様性と国際理解について、言語、宗教などを基によりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1

2 学 期	E 単元 「歴史的背景」「産業」と人々の生活 【知識及び技能】 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が歴史的背景や産業から影響を受けたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。 【思考・判断・表現力等】 世界の人々の生活文化について、場所の特徴や歴史的背景や産業などの社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 生活文化の多様性と国際理解について、歴史的背景や産業などを基によりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	・指導事項 多文化教育 ・教材 教科書、地図帳 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が歴史的背景や産業から影響を受けたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。 【思考・判断・表現】 世界の人々の生活文化について、場所の特徴や歴史的背景や産業などの社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 生活文化の多様性と国際理解について、歴史的背景や産業などを基によりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
3 学 期	F 単元 地球的課題と国際協力 【知識・技能】 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解し、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 世界各地で見られる地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	・指導事項 多文化教育 ・教材 教科書、地図帳 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解し、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解している。 【思考力、判断力、表現】 世界各地で見られる地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
3 学 期	G 単元 自然環境と防災 【知識及び技能】 我が国や世界の自然災害を基に、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。ハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	・指導事項 防災教育 ・教材 教科書、地図帳 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 我が国や世界の自然災害を基に、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。ハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について読み取り、まとめる地理的技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現】 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○	11
	H 単元 生活圏の調査と地域の展望 【知識及び技能】 生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	・指導事項 防災教育 ・教材 教科書、地図帳 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解している。 【思考力、判断力、表現】 生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

高等学校 令和4年度（1学年用） 教科 地理歴史 科目 歴史総合

教 科： 地理歴史 科 目： 歴史総合 単位数： 2 単位
対象学年組：第 1 学年 1 組～ 6 組
使用教科書：（ 歴史総合 近代から現代へ ）
教科 地理歴史 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 歴史総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 【知識及び技能】 欧米列強の成立と日本の近代化 【思考力、判断力、表現力等】 近代国家とは何か 【学びに向かう力、人間性等】 現代の自分たちとの対比	・指導事項 市民革命、日本の近代化 ・教材 教科書、資料集、プリント ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 用語や概念を適切に習得し活用できる 【思考・判断・表現】 諸資料を活用して適切な思考・判断を行い、言語活動を通じた表現ができている 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に積極的に取り組み、現代の自分たちとのつながりや対比に取り組んでいる	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	B 単元 【知識及び技能】 帝国主義と世界大戦 【思考力、判断力、表現力等】 大衆政治とは何か 【学びに向かう力、人間性等】 現代の自分たちとの対比	・指導事項 市民革命、日本の近代化 ・教材 教科書、資料集、プリント ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 用語や概念を適切に習得し活用できる 【思考・判断・表現】 諸資料を活用して適切な思考・判断を行い、言語活動を通じた表現ができている 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に積極的に取り組み、現代の自分たちとのつながりや対比に取り組んでいる	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
2 学 期	C 単元 【知識及び技能】 第二次世界大戦と戦後国際秩序 【思考力、判断力、表現力等】 戦後日本の独立とは何か 【学びに向かう力、人間性等】 現代の自分たちとの対比	・指導事項 市民革命、日本の近代化 ・教材 教科書、資料集、プリント ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 用語や概念を適切に習得し活用できる 【思考・判断・表現】 諸資料を活用して適切な思考・判断を行い、言語活動を通じた表現ができている 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に積極的に取り組み、現代の自分たちとのつながりや対比に取り組んでいる	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	D 単元 【知識及び技能】 冷戦と世界経済 【思考力、判断力、表現力等】 世界経済の成長とは何か 【学びに向かう力、人間性等】 現代の自分たちとの対比	・指導事項 市民革命、日本の近代化 ・教材 教科書、資料集、プリント ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 用語や概念を適切に習得し活用できる 【思考・判断・表現】 諸資料を活用して適切な思考・判断を行い、言語活動を通じた表現ができている 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に積極的に取り組み、現代の自分たちとのつながりや対比に取り組んでいる	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
3 学 期	E 単元 【知識及び技能】 グローバル化する世界 【思考力、判断力、表現力等】 グローバル化とは何か 【学びに向かう力、人間性等】 現代の自分たちとの対比	・指導事項 市民革命、日本の近代化 ・教材 教科書、資料集、プリント ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 用語や概念を適切に習得し活用できる 【思考・判断・表現】 諸資料を活用して適切な思考・判断を行い、言語活動を通じた表現ができている 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に積極的に取り組み、現代の自分たちとのつながりや対比に取り組んでいる	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

年間授業計画様式例

翔陽高等学校令和2年度 年間授業計画

教 科： 地歴公民 科 目： 日本史A 単位数： 2単位
対象学年組： 第2学年1・2,3・4組)
教科担当者：(1組:松崎 ㊦ ・ 2,3組:湯浅 ㊦ ・ 4組: 湯浅 ㊦)
使用教科書：(改訂版 日本史A 第一学習社)
使用教材：(新詳日本史 浜島書店)

指導内容		具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4月	開国と幕末の動乱	○江戸時代後期の幕藩体制の動揺と諸藩の改革について理解する。 ○開国に至る経緯と，幕府の対応について理解する。 ○開国以後の情勢について，幕府が崩壊した一連の流れを理解する。 ○幕末から明治初期の使節・留学生の派遣，外国人の招聘により欧米文化が導入されたことを理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	2

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
5 月	近代国家の形成	○・明治政府の初期の諸政策(四民平等・国民皆兵・秩禄処分)によって、近代日本の基礎が形成されたことを理解する。 ○明治政府の初期の諸政策(地租改正・殖産興業・北海道の開拓)によって、近代日本の基礎が形成されたことを理解する。 ○明治時代の文明開化(教育・思想・宗教)によって、近代日本の基礎が形成されたことを理解する。 ○明治政府の中央集権化・藩閥専制の傾向に対し、自由民権運動がおこり、国民の政治的関心が高揚し憲法制定・国会開設に至る、一連の動きを理解する。 ○明治政府の中央集権化・藩閥専制の傾向に対し、自由民権運動がおこり、国民の政治的関心が高揚し憲法制定・国会開設に至る、一連の動きを理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	6

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
6 月	近代国家の形成	○・明治政府の初期の諸政策(四民平等・国民皆兵・秩禄処分)によって、近代日本の基礎が形成されたことを理解する。 ○明治政府の初期の諸政策(地租改正・殖産興業・北海道の開拓)によって、近代日本の基礎が形成されたことを理解する。 ○明治時代の文明開化(教育・思想・宗教)によって、近代日本の基礎が形成されたことを理解する。 ○明治政府の中央集権化・藩閥専制の傾向に対し、自由民権運動がおこり、国民の政治的関心が高揚し憲法制定・国会開設に至る、一連の動きを理解する。 ○明治政府の中央集権化・藩閥専制の傾向に対し、自由民権運動がおこり、国民の政治的関心が高揚し憲法制定・国会開設に至る、一連の動きを理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	8

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
7 月	近代国家の形成	○初期の外交政策は、欧米に対しては不平等条約の改正，一方，アジア諸国に対しては強硬な態度で臨んだことを理解する。○この時期に，日本の領土が国際的に確定したことも理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	8
	国際関係の推移と近代産業の発展	○明治前半では，条約改正が最大の外交課題であり，この克服においては，国際情勢と国内情勢の推移が密接に関係し，進められたことを理解する。		

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
8 月	国際関係の推移と近代産業の発展	○日清・日露戦争の経緯と結果，また，この戦争を経て，アジアに対して日本が勢力の拡張をおこなったことを理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	4
	政党政治の展開	○明治時代後半において，国内的に政党政治（憲政党・立憲政友会）が展開したことを理解する。		

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
9 月	政党政治の展開	○明治後半から大正期において、第一次護憲運動、大正政変を通して国内的に政党政治が展開したことを理解する。 ○明治後半から大正期において、政党内閣の成立・第二次護憲運動等を通して国内的に政党政治が展開したことを理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	5
	近代産業の発展と社会運動の展開	○日清・日露戦争の過程で、日本に産業革命がおこり、資本主義が確立したことを理解する。 ○日清・日露戦争の過程で、日本に産業革命がおこり、金本位制の確立や財閥の形成など資本主義が確立したことを理解する。 ○資本主義の発展によって産業構造が変化し、これにともない、都市における貧民問題や労働問題など、さまざまな社会問題が発生したことを理解する。		

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
11 月	近代産業の発展と社会運動の展開	○社会運動の広がりとともに、大正期には女性解放運動が展開したことを理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	7
	国民生活の変化と文化	○国家主義思想や大正デモクラシーの風潮に着目して、明治期と大正期の思想の違いについて理解する。 ○国民統制において、教育政策や国家主的思想が果たした役割について理解する。 ○明治～昭和初期の文化的業績について理解する。 ○明治～昭和初期の文化の背景としての都市生活の発展について理解する。		

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
11 月	第一次世界大戦と日本	○第一次世界大戦に日本が参戦した意図，また第一次世界大戦を通しての日本の外交方針について理解する。 ○第一次世界大戦後，国際的に民族運動が高まったことについて理解する。 ○第一次世界大戦が日本に与えた経済的な影響について理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	7
	第二次世界大戦と日本	○国内的な第一次世界大戦後の不況，国際的な世界恐慌による経済危機を把握し，日本および各国が，この状況をどう克服したかを理解する。 ○軍部の台頭の過程と，これにともなう政治的な状況の変化について理解する。		

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
12 月	第二次世界大戦と日本	○中国・アメリカを中心とした国際関係の変化にも着目しながら、太平洋戦争に至る過程を理解する。 ○太平洋戦争に至る過程のなかで、国民生活はどのように変化したのかを理解する。 ○日本がアジア諸国に対して与えた影響について理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	5
	日本の再出発	○第二次世界大戦後の連合国による対日占領政策、民主化の諸改革の内容について理解する。		

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	日本の再出発	○日本国憲法について、その制定までの過程や内容の特徴を理解する。 ○戦後の深刻な国民生活の実態について理解する。 ○冷戦のはじまりと、日本に対する占領政策の転換からサンフランシスコ平和条約の締結に至る経緯と背景について、理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	5
	独立後の政治と対外関係	○主権回復後の日本の国内的な政治の推移と、新しい外交関係の確立の動きについて理解する。 ○高度経済成長の実態と、その歴史的意義について理解する。 ○石油危機にともなう日本国内の動きを、国際情勢の動向をふまえて、理解する。		

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
2 月	独立後の政治と対外関係	○国際的な冷戦の終結後の世界情勢と、国内的な55年体制の崩壊について、理解する。 ○現在の日本がかかえる諸課題について、国際社会での役割、国内的な問題という面から理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	6

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
3 月	経済の発展と国民生活の変化	○高度経済成長期において、科学技術の発達、産業構造の変化、消費の拡大など、これを機におきた変化の内容について理解する。 ○1970年代以降の消費生活の変化、その背景としての家族形態の変化について理解する。 ○1990年代以降の国民生活については、経済的背景としての雇用状況の変化、また、ネットワークの発展が大きなキーワードであることを理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	6

年間授業計画様式例

東京都立翔陽高等学校令和4年度 教科「地理歴史」科目「日本史B」 年間授業計画

教科:(地理歴史)科目:(日本史B) 対象:(第2学年)
使用教科書:詳説 日本史B(山川出版)
使用教材:『新詳日本史』(浜島書店)、『新日本史要点ノート応用編』(啓隆社)

指導内容		具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4 月	近代国家の成立	オリエンテーション・復習	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	6
		開国と幕末の動乱 幕府の権威と権力の失墜を、欧米の開国圧力と尊皇攘夷運動を背景に展開する。		

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
5 月		近代国家の成立	明治維新と富国強兵 明治政府の資本主義化への過程を、中央集権や軍制・地租改正などの諸改革を通してまとめる。 明治維新と富国強兵、立憲国家の成立と日清戦争 農民と士族の反政府運動から自由民権運動の展開、明治憲法と議会開設の過程と内容をまとめる。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	12

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
6 月		近代国家の成立	立憲国家の成立と日清戦争 欧米との条約改正交渉と対外戦争の勝利を関連づけて理解させる。 立憲国家の成立と日清戦争、日露戦争と国際関係 列強の植民地分割競争の激化とアジアの民族運動、国内の排外的ナショナリズムの高揚から日露戦争への途をまとめる。 日露戦争と国際関係 日露戦争の過程と国民生活への重圧、また戦後の国際関係の推移と新たに生じる米英との対立の表面化を概観する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	12

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
7 月	近代国家の成立	近代産業の発展 鉄道・紡績を中心とした企業勃興から、それを支えた製糸業。軍備拡張にともなう重工業の発展についてまとめる。 近代産業の発展、近代文化の発達 産業の発展による農業の位置づけ、および都市の社会問題・社会運動を取り上げる。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	5

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
8 月		近代国家の成立	近代文化の発達 近代文化の諸相を、資本主義の発展との対応関係のなかで捕らえる。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	2

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
9 月	二つの世界大戦とアジア	第一次世界大戦と日本 大正政変と第一次大戦の勃発、21か条要求による中国での利権拡大、大戦景気による空前の経済発展をまとめる。 第一次世界大戦と日本、ワシントン体制 ヴェルサイユ体制と国際連盟を中心とする国際秩序の中で、日本の立場とアジアでの日米英の三つ巴の関係を理解させる。 ワシントン体制、市民文化 米騒動・護憲運動・社会運動などを通して大正デモクラシーの姿を捉える。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	14

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
10 月		二つの世界大戦とアジア	恐慌の時代 ワシントン体制のなかで戦後恐慌から始まる慢性不況に悩む日本が、国際協調主義と強行外交の狭間の中で苦悩する姿を捉える。 恐慌の時代、軍部の台頭 昭和恐慌の打開策を求める日本が、中国情勢に危機感を持ち、満州事変を契機として軍部の発言権拡大と国際的に孤立していくさまをまとめる。 軍部の台頭 一時回復した経済がふたたび行き詰まり、二・二六事件から日中戦争に続く過程を、国内におけるさまざまな国家による弾圧とあわせてまとめる。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	12

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
11 月	二つの世界大戦とアジア	第二次世界大戦 欧州戦争勃発のなかで、独伊と結んだ日本が統制経済を強化しつつ、対米関係を悪化させつつ東南アジアへの進出を強行する過程をとらえる。 第二次世界大戦 真珠湾攻撃から始まる太平洋戦争と、国民生活の崩壊を概観する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	10

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
12 月	占領下の日本 高度成長の時代	占領と改革 軍国主義の温床となった財閥と寄生地主の解体、教育制度の改革、日本国憲法における民主主義思想と象徴天皇の意味するところを考えさせる。 占領と改革 軍国主義の温床となった財閥と寄生地主の解体、教育制度の改革、日本国憲法における民主主義思想と象徴天皇の意味するところを考えさせる。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	9

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	占領下の日本 高度成長の時代	冷戦の開始と講和 戦後処理をめぐる米ソの対立の激化と「独立」。および民主的改革の中断とアメリカとの関係強化についてまとめる。 冷戦の開始と講和、55年体制 国際情勢の多極化と、独立回復後の再軍備に代表される国家主義的傾向である「逆コース」に対する反対運動の高揚をまとめる。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	9

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
2 月		高度成長の時代 激動する世界と日本	冷戦の終結と日本社会の動揺 冷戦終結後の国際情勢、国内における 55 年体制の崩壊にともなう政治の不安定。90 年代の不況について、現在の経済状況と関連させて考えさせる。 経済復興から高度成長へ 個人所得の増大と都市化の進展による大衆消費社会の出現と。経済成長を優先させる考え方がもたらした「公害」を、企業利潤と人間の尊厳から考えさせる。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	8

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
3 月		激動する世界と日本	経済大国への道 2度の石油危機をのりこえ、成長を維持した日本と、欧米諸国との貿易摩擦、また市民生活の変容についてまとめる。 冷戦の終結と日本社会の動揺 冷戦終結後の国際情勢、国内における55年体制の崩壊にともなう政治的不安定。90年代の不況について、現在の経済状況と関連させて考えさせる。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	7

年間授業計画様式例

翔陽高等学校令和4年度 年間授業計画

教 科： 地歴公民 科 目： 世界史B 単位数： 3単位

対象学年組： 第2学年選択者)

使用教科書： (改訂版 詳説世界史B 山川出版)

使用教材： (タペストリー 帝国書院 / 詳説世界史10分間テスト 山川出版 / 詳説世界史整理ノート 山川出版)

指導内容		具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4 月	先史の世界	○人類が自然環境に適応しながら進化し，農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げたことに気付くと同時に，人類と言語の分化を理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	6

指導内容		具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
5 月	オリエントと地中海世界	○西アジア世界の地理的特質を把握し，オリエント文明の盛衰，イラン人の活動を理解する。○地中海一帯の地理的特質を把握し，エーゲ文明，ギリシア・ヘレニズム文明の特徴を理解する。○都市国家から大帝国に発展したローマ文明の特質を理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	8

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
			定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	8
6月	オリエントと地中海世界	○西アジア世界の地理的特質を把握し、オリエント文明の盛衰、イラン人の活動を理解する。○地中海一帯の地理的特質を把握し、エーゲ文明、ギリシア・ヘレニズム文明の特徴を理解する。○都市国家から大帝国に発展したローマ文明の特質を理解する。		

指導内容		具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
7 月	アジア・アメリカの古代文明	○南アジアの地理的特質を把握し、インド文明の成立と発展、独自の宗教・社会制度など、南アジア世界の形成過程を理解する。○東南アジアの地理的特質を把握し、東南アジア世界における国家形成の過程を理解する。○東アジアの地理的特質を把握し、中国文明の起源、殷・周の成立から秦・漢帝国の動向までを理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	8

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
8 月		アジア・アメリカの古代文明	○先住民による南北アメリカ文明の形成とその特色を理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	4
		内陸アジア世界・東アジア世界の形成	○内陸アジアの地理的特質を把握し、台頭した遊牧民とその国家の動向を、オアシス民の活動とともに理解する。		

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
9 月		内陸アジア世界・東アジア世界の形成	○東アジアにおける北方遊牧民族の動向と，三国時代から魏晋南北朝という中国の分裂と動乱の時代を理解する。○隋唐帝国の国家制度や文化，日本を含む東アジア世界諸国の国家体制の整備やその動向を理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	8

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
10 月	イスラーム世界の形成と発展	○イスラーム世界成立の背景とその特質，アラブ人による発展とイスラーム帝国の形成を理解する。○トルコ系民族が内陸アジアから進出し，ムスリムの連携を維持しながらイスラーム世界を拡大させていった過程を理解する。○インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化など，イスラーム世界の拡大の過程を理解する。○イスラーム文明の特質とその影響，学問と文化活動の内容，イスラーム都市を中心としたネットワークの役割を理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	10

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
11 月	ヨーロッパ世界の形成と発展	○・地中海世界解体後，ヨーロッパ世界が東西に分かれ，ゲルマン人移動後の西ヨーロッパでは，外部勢力との対抗の中で封建社会が形成されていったことを理解する。○ビザンツ帝国の繁栄とその社会や文化，スラヴ人と周辺諸民族の自立の過程を理解する。○十字軍以降の西ヨーロッパ中世世界の変容と諸国の動向を理解する	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	10

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
12 月	ヨーロッパ世界の形成と発展	○教会と修道院，大学やスコラ学などから，ヨーロッパ中世文化の特色を理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	10
	内陸アジア世界・東アジア世界の展開	○内陸アジア世界におけるトルコ人の活動とイスラーム化の進展を理解する。○契丹や女真といった遊牧諸勢力の台頭や日本を含めた東アジア諸地域の勢力交替，宋の興亡と社会や文化の特色を理解する。		

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	内陸アジア世界・東アジア世界の展開	○モンゴル帝国の興亡と、その活動が日本を含む諸地域世界に与えた影響の大きさを理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	7
	アジア諸地域の繁栄	○中華帝国を再現した明朝の動向とともに、朝鮮や日本など東アジア世界の状況を理解する。		

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
2 月	アジア諸地域の繁栄	○清朝の形成した広大な領域支配とその社会や文化とともに、東アジア世界の動向を理解する。○トルコ・イラン世界に誕生したイスラーム帝国の動向とその社会や文化の特質を理解する。○南アジアに誕生したムガル帝国の動向とインド社会や文化の変化、東南アジア交易の発展を理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	8
	近世ヨーロッパの形成	○ヨーロッパ世界の拡大とアメリカ大陸の征服、それに伴うヨーロッパ社会の変革の動きを理解する。		

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
3 月		近世ヨーロッパの形成	○ルネサンスのもたらした芸術・思想・科学の変革の内容と意義を理解する。 ○ドイツから始まった宗教改革の理念とその拡大，カトリック教会の対応を理解する。○近代国家の原型となった主権国家体制の特色と，体制の形成に向かうヨーロッパ諸国の内乱や戦争の動向を理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	8

東京都立翔陽高等学校令和4年度 教科「地理歴史」科目「日本史B」 年間授業計画

教科:(地理歴史)科目:(日本史B) 対象:(第3学年)
使用教科書:詳説 日本史B(山川出版)
使用教材:『新詳日本史』(浜島書店)『要点整理 ゼミナール日本史』(浜島書店)

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4 月	日本文化のあけぼの	文化の始まり 旧石器時代以来の日本文化の形成を整理して理解する。 農耕社会の成立 農耕社会が形成する背景を理解し、知識を整理する 古墳とヤマト政権 古墳の分布から大和政権の展開を理解し、対外関係を含めた理解を整理する	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	8
	律令国家の形成	飛鳥の朝廷 仏教文化の広がり と定着を背景にした飛鳥の政治や外交を理解し整理する。 律令国家への道 律令政治が定着するなか、中国との関係を踏まえた国家体制を理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	12

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
5 月		平城京の時代 平城京遷都後の政治の変遷について整理し理解する。 天平文化 遣唐使を介して国内に流入した唐文化がどのように国内定着していったのかを理解する 平安王朝の形成 平安京遷都後の政治の変遷を整理して理解する。		

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
6 月	貴族政治と国風文化	摂関政治 藤原氏と天皇家との関係性を中心に政治の変遷を理解する。 国風文化 唐の文化を土台に成熟する文化について、推移とその変化について比較しながら理解する。 地方政治の展開と武士 土地制度の変遷を背景に土着した武士層や、朝廷から派遣される官職としての武士によって地方に政治の転換が普及していくことを整理して理解する	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	16

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
7 月	貴族政治と国風文化	摂関政治 藤原氏と天皇家との関係性を中心に政治の変遷を理解する。 国風文化 唐の文化を土台に成熟する文化について、推移とその変化について比較しながら理解する。 地方政治の展開と武士 土地制度の変遷を背景に土着した武士層や、朝廷から派遣される官職としての武士によって地方に政治の転換が普及していくことを整理して理解する	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	8

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
8 月	中世社会の成立	地方政治の展開と武士、院政と平氏の台頭 外戚関係の断絶により、後三条天皇から院政という摂関に変わる新しい権力の出現とそれを取り巻く勢力についてまとめる。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	2
		院政と平氏の台頭 平氏政権の成立から滅亡過程、およびこの政権が古代的性格と武家的性格の両面を持つことを理解させる。 鎌倉幕府の成立 成立過程と幕府権力基盤を、守護地頭の設置や財政基盤等の説明を通して理解させる。		

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
9 月	武家社会の成長	武士の社会 全国政権への契機となった承久の乱、および執権を中心とする合議体制の確立、また御成敗式目の意義について明確にする。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	18
		武士の社会、蒙古襲来と幕府の衰退 元寇を東アジア情勢全体のなかでとらえさせる。また、北条氏の独裁と御家人の離反という主従関係の崩壊を理解させる。		
		蒙古襲来と幕府の衰退 元寇を東アジア情勢全体のなかでとらえさせる。また、北条氏の独裁と御家人の離反という主従関係の崩壊を理解させる。		
		鎌倉文化 新仏教に関して各宗派の特色や受容層、一方で旧仏教の復興運動も強調する。		

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
10 月	武家社会の成長	室町幕府の成立 建武政権の成立と滅亡の過程で、短期政権であった原因を武士側の立場から強調する。 室町幕府の成立 南朝との統一戦を抱えながら政権が成立、安定していく過程、また鎌倉時代の守護より強化された守護大名と幕府の関係を理解させる。 幕府の衰退と庶民の台頭 惣村の成立と自治、および国人層を巻き込んだの土一揆への過程を明確にし、武家の相続法の変化、下剋上とあわせて権力の弱体化を説明する。 幕府の衰退と庶民の台頭、室町文化 南北朝、北山、東山の各文化の特色を、茶の湯や生け花などの身近なところから日本の伝統文化であることを紹介する。 室町文化 南北朝、北山、東山の各文化の特色を、茶の湯や生け花などの身近なところから日本の伝統文化であることを紹介する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	18

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
11 月	幕藩体制	戦国大名の登場 応仁の乱や下剋上の風潮の元で、戦国大名が登場する過程および領国支配、また政策から都市の発展や文化の地方伝播について伝える。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	18
		織豊政権 ヨーロッパ人のアジア進出の中で、鉄砲とキリスト教の伝来がどのように後世の日本に影響したか考えさせる。		
		織豊政権、桃山文化 信長と秀吉の全国統一事業を可能にした要因、また検地と刀狩による土地制度の変化と身分制社会の形成に着目させる。		
		桃山文化 新興の大名や都市の豪商の力を反映し、豪華絢爛で宗教的色彩を脱した点を強調する。		
		幕藩体制の成立 家康の覇権確立の過程と幕藩体制とよばれる政治支配を、織豊政権との比較を含めて説明する。		

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
12 月	幕藩体制の動揺	幕藩体制の成立 外交や貿易面での積極的な施策が日本人の海外発展を促した一方、鎖国禁教政策の意義について理解させる。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	14
		幕藩体制の成立 外交や貿易面での積極的な施策が日本人の海外発展を促した一方、鎖国禁教政策の意義について理解させる。		
		幕藩社会の構造 幕藩体制にとって基本的な産業である農業を中心に、それに従事する農民の生活や負担、村の構造を取り上げる。		
		幕藩社会の構造、幕政の安定 大坂の役後安定した世の到来で、政治指導者や政策が異なってくるさまを、政治理論的に補強する儒教の発達をあわせて説明する。		
		幕政の安定、経済の発展 各地における農業生産力増大のための技術開発、商業とのかかわりによる相互発展、漁法や海運・交通面での工夫や開発をまとめる。		

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	幕藩体制の動揺	経済の発展、元禄文化 商品経済発達により、特権商人にかわり、台頭する都市商人を背景に展開された元禄文化の創造性や気品に着目させる。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	10
		元禄文化、幕政改革 享保の改革と田沼時代の政策について、農村支配の再構築と商業資本利用という相違点と、両者の共通の目的を説明。		
		幕政改革、宝暦・天明期の文化 上方中心の元禄文化に対し、将軍の膝元である江戸で、「いき」「江戸っ子」という意識を背景にした江戸町人文化であることを、次の化政文化と関連づけて捉えさせる。		
		宝暦・天明期の文化 上方中心の元禄文化に対し、将軍の膝元である江戸で、「いき」「江戸っ子」という意識を背景にした江戸町人文化であることを、次の化政文化と関連づけて捉えさせる。		

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
2 月					

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
3 月					

東京都立翔陽高等学校令和4年度 教科「地理歴史」科目「日本史B演習」 年間授業計画

教科:(地理歴史)科目:(日本史B) 対象:(第3学年)
使用教科書:詳説 日本史B(山川出版)
使用教材:『新詳日本史』(浜島書店)『要点整理 ゼミナール日本史』(浜島書店)『大学入学共通テスト 日本史トレーニング問題集』(山川出版)

指導内容		具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4 月	占領と改革	敗戦後の占領期の国内政治、外交などを国際的な枠組みの中で整理し理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	4

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
5 月		冷戦の開始と講和	国際的な米ソ対立（冷戦構造）を前提に、西側諸国の一員としてアメリカの同盟国として独立を果たす日本の国内政治と外交の推移について理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	8

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
6 月		5 5 年体制	冷戦構造を背景に日本の独立に向けた動きが国内外で進み、講和条約と日米間での条約締結を踏まえて日本の独立が果たされたことを理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	8

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
7 月		軽罪復興から高度成長へ	戦後復興の経済的な要因について理解したうえで、1970年代までの経済的な成長について考察し理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	4

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
8 月					

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
9 月		経済復興から高度成長へ	戦後復興の経済的な要因について理解したうえで、1970年代までの経済的な成長について考察し理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	6

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
10 月		激動する世界と日本	1970年代以降、経済大国として国際社会の中で確立されていく日本の立場の変化や、外交、国内政治の変化を、整理し理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	8

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
11 月		入試問題演習	共通テスト過去問演習・解説	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	8

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
12 月	入試問題演習	共通テスト過去問演習・解説	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	4
		センター試験過去問演習・解説		

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月		入試問題演習	共通テスト過去問演習・解説	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	2

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
2 月					

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
3 月					

年間授業計画様式例

翔陽高等学校令和4年度 年間授業計画

教 科： 地歴公民 科 目： 世界史B 単位数： 4 単位

対象学年組： 第3学年選択者)

使用教科書： (改訂版 詳説世界史B 山川出版)

使用教材： (タペストリー 帝国書院 / 詳説世界史10分間テスト 山川出版 / 詳説世界史整理ノート 山川出版)

指導内容		具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4 月	内陸アジア世界・東アジア世界の展開	○内陸アジア世界におけるトルコ人の活動とイスラーム化の進展を理解する。 ○東アジア諸地域の勢力交替、宋の興亡と社会や文化の特色を理解する。○モンゴル帝国の興亡と、その活動が日本を含む諸地域世界に与えた影響の大きさを理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	10

指導内容		具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
5 月	東アジア世界の動向	○明朝、清朝の動向とともに、東アジア世界の状況を理解する。○トルコ・イラン世界に誕生したイスラーム世界の動向と特質を理解する。○ムガル帝国の動向、東南アジア交易の発展を理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	10

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
			定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	10
6 月	近世ヨーロッパ世界の形成	○ヨーロッパ世界の拡大とアメリカ大陸の制服、それにともなうヨーロッパ社会の変革の動きを理解する。○ルネサンスの意義を理解する。○宗教改革、カトリック教会の対応を理解する。○主権国家体制について理解する。		

指導内容		具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
7 月	近世ヨーロッパ世界の展開	○ヨーロッパ主権国家諸国の動向を理解する。○ヨーロッパ諸国の植民地争奪と大西洋三角貿易を理解する。○17・18世紀のヨーロッパ文化を理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	14
	近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	○イギリス産業革命と産業資本主義体制の確立について理解する。○アメリカ独立革命とその影響について理解する。○フランス革命とナポレオンについて理解する。		

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
8 月	欧米における近代国民国家の発展	○ウィーン体制と自由主義・ナショナリズム運動について理解する。○クリミア戦争、イタリア・ドイツの統一、ロシア・オーストリアの皇帝主導の近代化について理解する。○ラテンアメリカの独立、アメリカ合衆国の拡大、南北戦争について理解する。○19世紀の欧米文化について理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	10

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
9 月		アジア諸地域の動揺	○オスマン帝国支配の動揺と改革，アラブ諸民族の覚醒，イラン・アフガニスタンの動向を理解する。○インドの植民地化，東南アジア諸国の植民地化の過程を理解する。○清朝の動揺と近代化改革，日本の開国と台頭による東アジア国際秩序の再編を理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	8

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
10 月	帝国主義とアジアの民族運動	○帝国主義の特質と欧米列強諸国の国家・社会の変化を理解する。○世界各地の分割や植民地化をめぐる競合と、従属させられた地域社会の抵抗と変容を理解する。○欧米諸国の支配を受けたアジア諸国の改革と民族運動の形成を理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	16
	二つの世界大戦	○第一次世界大戦とロシア革命が国際秩序に大きな変化をもたらし、20世紀の変動の基点となったことを理解する。		

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
11 月	二つの世界大戦	○国際協調を基調としたヴェルサイユ体制下の欧米諸国の動向を理解する。○中国や東南アジア諸国，インド，トルコや西アジア諸国，アフリカの民族運動の展開を理解する。○世界恐慌以降の欧米諸国の動向や東アジアの状況から，国際的な緊張が高まる時代を理解する。○第二次世界大戦に至る過程と戦争規模の拡大，米ソの国際的地位の高まりを理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	14

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
12 月	冷戦と第三世界の独立	○第二次世界大戦後、米・ソを中心とした冷戦体制が成立し、東西両陣営に世界が分裂したことを理解する。○中華人民共和国の成立やアジア諸地域の独立の過程を理解する。○朝鮮戦争などによる米ソ冷戦の激化から、日本・西欧の経済復興や「雪どけ」の始まりによって、国際政治や経済が多極化に向かったことを理解する。○戦後の20年間に段階的に独立を達成したアジア・アフリカ諸国が第三勢力として躍進し、発言力を強めたことを理解する。○米・ソの両大国の動揺と国際的な影響力の減退を理解する。○ドル＝ショック、オイル＝ショック以降の国際経済の再編、冷戦の終結への流れを理解する。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	15

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	現代の世界	○東欧社会主義圏の消滅とソ連邦の解体，1990年代の情報技術革命とグローバル経済の進展を理解する。○途上国の民主化の進展と，アジア社会主義国家の変容を理解する。 ○世界で多発する地域紛争と同時多発テロ後の戦争，紛争解決や軍縮の試みを理解する。○科学技術の発達と現代文明の抱える危機，現代思想や文化の特徴について理解する。○帝国主義の時代からグローバル化した「地球世界」が成立した現代までの歴史を再確認し，その課題から21世紀の世界を展望する。○地球世界の課題に関する主題を設定し，選択したその時代の資料を活用して探求し，表現する技能を学ぶ。	定期テストとともに、小テスト・ノートなどの課題提出点も加味する。	8

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
2 月	復習				

指導内容		具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
3 月	復習			

年間授業計画様式例

翔陽高等学校令和2年度 地理歴史科世界史B演習 年間授業計画

教 科： 地理歴史科 科 目： 世界史B演習 単位数： 2単位
対象学年組： 第3学年選択者)
使用教科書： (『詳説 世界史B』山川出版)
使用教材： (『大学入学共通テスト 世界史B単元別問題集』駿台文庫 『詳説世界史 改訂版 10分間テスト』山川出版)

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4 月	序章 先史の世界	人類が自然環境に適応しながら進化し、農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げたことに気付くと同時に、人類と言語の分化を理解する。	知・技・思 ワークシート	6
	第I部 第1章 オリエントと地中海世界 1. 古代オリエント世界	・西アジア世界の地理的特質を把握し、オリエント文明の盛衰、イラン人の活動を理解する。	知・技・思 ワークシート	
	2. ギリシア世界	・地中海一帯の地理的特質を把握し、エーゲ文明、ギリシア・ヘレニズム文明の特徴を理解する。	知・技・思 ワークシート	
	3. ローマ世界	・都市国家から大帝国に発展したローマ文明の特質を理解する。	知・技・思 ワークシート	
	第2章 アジア・アメリカの古代文明 1. インドの古典文明	・南アジアの地理的特質を把握し、インド文明の成立と発展、独自の宗教・社会制度など、南アジア世界の形成過程を理解する。	知・技・思 ワークシート	

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
5 月	2. 東南アジアの諸文明	・東南アジアの地理的特質を把握し、東南アジア世界における国家形成の過程を理解する。	知・技・思 ワークシート	6
	3. 中国の古典文明	・東アジアの地理的特質を把握し、中国文明の起源、殷・周の成立から秦・漢帝国の動向までを理解する。	知・技・思 ワークシート	
	第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	・内陸アジアの地理的特質を把握し、台頭した遊牧民とその国家の動向を、オアシス民の活動とともに理解する。	知・技・思 ワークシート	
	1. 草原の遊牧民とオアシスの定住民			
	2. 北方民族の活動と中国の分裂	・東アジアにおける北方遊牧民族の動向と、三国時代から魏晉南北朝という中国の分裂と動乱の時代を理解する。	知・技・思 ワークシート	
	第Ⅱ部 第4章 イスラーム世界の形成と発展 1. イスラーム世界の形成	・イスラーム世界成立の背景とその特質、アラブ人による発展とイスラーム帝国の形成を理解する。	知・技・思 ワークシート	

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
6 月	2. イスラーム世界の発展	・トルコ系民族が内陸アジアから進出し、ムスリムの連携を維持しながらイスラーム世界を拡大させていった過程を理解する。	知・技・思 ワークシート	6
	3. インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化	・インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化など、イスラーム世界の拡大の過程を理解する。	知・技・思 ワークシート	
	4. イスラーム文明の発展	・イスラーム文明の特質とその影響、学問と文化活動の内容、イスラーム都市を中心としたネットワークの役割を理解する。	知・技・思 ワークシート	
	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 1. 西ヨーロッパ世界の成立	・地中海世界解体後、ヨーロッパ世界が東西に分かれ、ゲルマン人移動後の西ヨーロッパでは、外部勢力との対抗の中で封建社会が形成されていったことを理解する。	知・技・思 ワークシート	
	2. 東ヨーロッパ世界の成立	・ビザンツ帝国の繁栄とその社会や文化、スラヴ人と周辺諸民族の自立の過程を理解する。	知・技・思 ワークシート	

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
7 月	3. 西ヨーロッパ中世世界の変容	・十字軍以降の西ヨーロッパ中世世界の変容と諸国の動向を理解する。	知・技・思 ワークシート	4
	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開			
	1. トルコ化とイスラーム化の進展	・内陸アジア世界におけるトルコ人の活動とイスラーム化の進展を理解する。	知・技・思 ワークシート	
	2. 東アジア諸地域の自立化	・契丹や女真といった遊牧諸勢力の台頭や日本を含めた東アジア諸地域の勢力交替, 宋の興亡と社会や文化の特色を理解する。	知・技・思 ワークシート	
	3. モンゴルの大帝国	・モンゴル帝国の興亡と, その活動が日本を含む諸地域世界に与えた影響の大きさを理解する。	知・技・思 ワークシート	
	第Ⅲ部 第7章 アジア諸地域の繁栄			
	1. 東アジア世界の動向	・中華帝国を再現した明朝の動向とともに, 朝鮮や日本など東アジア世界の状況を理解する。	知・技・思 ワークシート	

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
8 月	2. 清代の中国と隣接諸地域	・清朝の形成した広大な領域支配とその社会や文化とともに、東アジア世界の動向を理解する。	知・技・思 ワークシート	2
	3. トルコ・イラン世界の展開	・トルコ・イラン世界に誕生したイスラーム帝国の動向とその社会や文化の特質を理解する。	知・技・思 ワークシート	
	4. ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展	・南アジアに誕生したムガル帝国の動向とインド社会や文化の変化、東南アジア交易の発展を理解する。	知・技・思 ワークシート	

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
9 月	2. ルネサンス	・ルネサンスのもたらした芸術・思想・科学の変革の内容と意義を理解する。	知・技・思 ワークシート	6
	3. 宗教改革	・ドイツから始まった宗教改革の理念とその拡大, カトリック教会の対応を理解する。	知・技・思 ワークシート	
	4. ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成	・近代国家の原型となった主権国家体制の特色と, 体制の形成に向かうヨーロッパ諸国の内乱や戦争の動向を理解する。	知・技・思 ワークシート	
	第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 1. 重商主義と啓蒙専制主義	・17～18世紀におけるヨーロッパ主権国家諸国の動向を, 重商主義と啓蒙専制主義を柱として理解する。	知・技・思 ワークシート	
	2. ヨーロッパ諸国の海外進出	・ヨーロッパ諸国の植民地争奪と大西洋世界の三角貿易のもたらした国際的枠組みを理解する。	知・技・思 ワークシート	

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
10 月	第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立			6
	1. 産業革命	・イギリス産業革命の背景と展開，産業資本主義体制の確立とその影響について理解する。	知・技・思 ワークシート	
	2. アメリカ独立革命	・アメリカ独立革命の経過と，独立が近代民主政治に与えた影響を理解する。	知・技・思 ワークシート	
	3. フランス革命とナポレオ	・アメリカ独立革命とフランス革命が近代民主政治に与えた影響を理解する	知・技・思 ワークシート	
	第11章 欧米における近代国民国家の発展			
	1. ウィーン体制の成立	・ウィーン体制の成立と，その体制下に広がったヨーロッパ諸国の自由主義とナショナリズムの運動を理解する。	知・技・思 ワークシート	
	2. ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生	・クリミア戦争以後の国際秩序の動揺と再編，イタリア・ドイツにおける国民国家の形成過程，ロシア・オーストリアの皇帝主導の近代化を理解する。	知・技・思 ワークシート	

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
11 月	第12章 アジア諸地域の動揺 1. オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容	・西アジアにおけるオスマン帝国支配の動揺と改革, アラブ諸民族の覚醒, イラン・アフガニスタンの動向を理解する。	知・技・思 ワークシート	6
	2. 南アジア・東南アジアの植民地化	・インドの植民地化とその社会の変貌, 東南アジア諸国の植民地化の過程を理解する。	知・技・思 ワークシート	
	3. 東アジアの激動	・ヨーロッパ諸国の干渉による清朝の動揺と近代化改革, 日本の開国と台頭による東アジア国際秩序の再編を理解する。	知・技・思 ワークシート	
	第IV部 第13章 帝国主義とアジアの民族運動 1. 帝国主義と列強の展開	・帝国主義の特質と, 帝国主義時代における欧米列強諸国の国家・社会の変化を理解する。	知・技・思 ワークシート	
	2. 世界分割と列強対立	・帝国主義時代の欧米列強による世界各地の分割や植民地化をめぐる競合と, 従属させられた地域社会の抵抗と変容を理解する。	知・技・思 ワークシート	

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
12 月	3. アジア諸国の改革と民族運動	・欧米諸国の支配を受けたアジア諸国の改革と民族運動の形成を理解する。	知・技・思 ワークシート	4
	第14章 二つの世界大戦 1. 第一次世界大戦とロシア革命	・第一次世界大戦とロシア革命が国際秩序に大きな変化をもたらし、20世紀の変動の 基点となったことを理解する。	知・技・思 ワークシート	
	2. ヴェルサイユ体制下の欧米諸国	・国際協調を基調としたヴェルサイユ体制下の欧米諸国の動向を理解する。	知・技・思 ワークシート	
	3. アジア・アフリカ地域の民族運動	・中国や東南アジア諸国、インド、トルコや西アジア諸国、アフリカの民族運 動の展開を理解する。	知・技・思 ワークシート	
	4. 世界恐慌とファシズム諸国の侵略	・世界恐慌以降の欧米諸国の動向や東アジアの状況から、国際的な緊張が高まる時 代を理解する。	知・技・思 ワークシート	

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	5. 第二次世界大戦	・第二次世界大戦に至る過程と戦争規模の拡大, 米ソの国際的地位の高まりを理解する。	知・技・思 ワークシート	4
	第15章 冷戦と第三世界の独立 1. 戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立	・第二次世界大戦後, 米・ソを中心とした冷戦体制が成立し, 東西両陣営に世界が分裂したことを理解する。 ・中華人民共和国の成立やアジア諸地域の独立の過程を理解する。	知・技・思 ワークシート	
	2. 米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興	・朝鮮戦争などによる米ソ冷戦の激化から, 日本・西欧の経済復興や「雪どけ」の始まりによって, 国際政治や経済が多極化に向かったことを理解する。	知・技・思 ワークシート	
	4. 石油危機と世界経済の再編	・ドル＝ショック, オイル＝ショック以降の国際経済の再編, 冷戦の終結への流れを理解する。	知・技・思 ワークシート	

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
2 月					

		指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
3 月					